

令和 6 年度 東京都立井草高等学校 学校経営計画

校長 粕谷 真由美

1 目指す学校

(1) スクール・ミッション

「知性と感性を磨き自らの健康を培いながら向上進取の精神で自己実現を目指す」教育理念のもと、真理を探究し、問題を解決する態度や責任を重んじて自主的に行動できる生徒を育てます。さらに、国際交流プログラムや異文化交流を通して国際人の育成に力を入れグローバルに活躍する人材を育成します。

(2) スクール・ポリシー

① グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力）

本校では、4つの資質・能力の育成を目指します。

- (ア) 真理を探究し、課題を解決しようとする態度
- (イ) 自主・自律の精神
- (ウ) 社会で前向きに生きていく力
- (エ) 国際社会で活躍し、貢献できる力

② カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施）

本校では、次の4点を特色とする教育活動を実施します。

- (ア) 真理を探究する喜びを知り、課題解決に挑戦するための高い教養を身に付ける授業。
- (イ) リーダーシップ、フォロワーシップを学び、自主・自律の精神を磨く学校行事と部活動。
- (ウ) 自分を見つめ、視野を広げて、夢に向かって着実に進む井草夢プロジェクト。
- (エ) 自国に対する理解を深め、異文化を学び、多様な価値観をもつ人々と共に学ぶ国際理解教育。

③ アドミッション・ポリシー（入学者の受け入れ）

グローバルに活躍する人材を育てる進学校として、次のような生徒の入学を期待します。

- (ア) 学習意欲に富み、自らの目標に向けて学業に励むとともに、高い教養を身に付けようとする生徒
- (イ) 学校行事や部活動等の特別活動に積極的に参加し、自主・自律の精神を磨こうとする生徒
- (ウ) 志を高くもち、失敗にくじけず、物事に前向きに取り組む意欲をもつ生徒
- (エ) 異文化に興味と関心をもち、国際理解教育に積極的に取り組む意欲をもつ生徒

2 中期的目標と方策

(1) 高い志と自主・自律の精神を養う。

基礎・基本の確実な定着を基盤に、体験的・探究的な学習を取り入れ、生徒が学問に興味・関心をもち、学ぶ喜びや感動を実感することで志高く自ら学びに向かう教科指導を実践する。また、社会や生徒の実態を踏まえ、教職員と生徒とが知恵を出し合い創意工夫を凝らすことで、学校行事、生徒会活動、部活動等の特別活動を充実させ、自主・自律の精神を育むとともに、様々な課題に対応できる能力と態度の育成を図る。

(2) 自らの進路を切り開くことができる人材を育成する。

学びへの動機づけをし、自らの進路に向けて学業への努力を継続する態度の育成を図るために、キャリア教育の充実を図る。具体的には、総合的な探究の時間の充実、大学入試に対応した情報科等の指導の保証を目的とし、各学年に設置する教科・科目を精査し、教育課程の改善に取り組む。また、自主的、自律的な家庭等での学習につながるよう教科指導の充実と工夫を図る。さらに、特別活動の自主的な企画・運営、継続的な読書活動、プレゼンテーション能力育成の教育活動を通して、論理的思考力、考察力、及び自分の意見を的確に表現する能力を育てる。

(3) 国際社会で活躍する人材を育成する。

国際理解教育を通して多様な人々を受容する精神を育むとともに、地域や他校等との連携を深め、率先して社会に貢献しようとする態度を育成する。また、国際交流事業の充実を図ることで、多様な価値観の理解や言語能力向上への意欲を育て、国際社会におけるリーダーとしての資質を育成する。さらに、教科学習はもとより教育活動全般においてICT機器を活用した教育を進め、高度な情報化社会に適応できる能力を育成する。

(4) 不断に挑戦する教職員集団として、チームとしての教育力向上を図る。

より高きを目指し挑戦するプロ集団として、教育活動を積極的に公開・発信し、常に改善を図る。また、企画調整会議を中枢に教育系職員と行政系職員の協働体制を確立し、業務の効率化を図るとともに、教科主任を中心とし教科指導力の向上を目指す。さらに、ウェルビーイングの実現に向け、互いの個性を尊重し生き生きと働く「チーム学校」としての成長を目指す。

3 今年度の取組目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策

① 学習指導

- (ア) 新学習指導要領の趣旨を踏まえた主体的・対話的で深い学びの実現を目標に、学習指導を充実させる。特に、一人1台端末を活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体化に取り組む。
- (イ) 国公立大や難関私立大を第一志望とする生徒の進路実現を目標に、高い学力を身に付けさせるための質の高い教科指導を保証する。
- (ウ) 生徒の意欲的な学習指導への参加を促すための指導と評価の一体化をさらに推進することを目標に、指導の重点を明確にし、教科主任を中心に教科全体で、身に付けさせたい資質能力の育成に取り組む。
- (エ) 家庭等での自主・自律的な学びの深化を目標に、一人1台端末を活用した学習課題等の指示や反転授業の実施などの工夫を行う。学習課題等は全履修生徒へ公開を原則とする。
- (オ) 生徒に学びへの関心・意欲をもたせ、学ぶ喜びを感じさせることを目標に、生成AI研究校の取組や長期休業中講座の充実を図り、各々の教員の専門性を集結させチーム力を生かした指導を実践する。

② 生活指導

- (ア) 国際社会で活躍するリーダーとしての規範意識と社会性を育成することを目標に、遅刻等基本的な生活習慣、校内美化等集団生活でのマナー、人権感覚について、日常的にきめの細かい指導を行う。
- (イ) 自主・自律の精神を育むことを目標に、学校行事や部活動等の特別活動において、教員の指導の下、生徒に考えさせ、ガイドライン等ルールを遵守しつつ新たなことへ挑戦させる指導を行う。
- (ウ) 生命尊重と高い人権感覚を養うことを目標に、いじめ・体罰は絶対に許さない、見逃さないを徹底するとともに、ヘルメット着用の推奨及びSOSの出し方に関する教育の浸透を図る。また、学校安全計画年間指導計画に基づく臨機応変な指導及び首都直下型地震を想定した防災教育の充実に取り組む。
- (エ) 生涯にわたり心身の健康を維持する態度の育成を目標に、生徒の自己肯定感を育む言葉掛けを日常的に行い、教育相談や特別支援教育の視点を踏まえた校内委員会の実施と充実に取り組む。
- (オ) 生徒のサインを見逃さないことを目標に、専門家を講師とする校内研修を年間2回以上実施する。

③ 進路指導

- (ア) 全ての生徒が第一志望校等に合格することを目標に、進路相談室機能の充実を継続し、役割を分担しつつ全ての教員による進路指導を推進する。また、進路指導部主導による面接等指導、模試分析会、ケース会議等を実施するとともに、生徒及び保護者に適時、十分な情報発信と面談等を行う。
- (イ) 自主・自律的な学習態度と高い志の育成を目標に、総合的な探究の時間、3年間を見通したキャリア教育について進路指導部を中心に内容の詳細を全教職員で共有し、全ての教員が相談活動等を通して生徒を励まし支える体制を構築し、各教科、分掌の横断的・有機的な取組を推進する。
- (ウ) 生徒の高い志と挑戦する意欲を維持させることを目標に、特別講習に生徒自身が積極的に参加するよう、目標や内容の明確化と充実に取り組む。

④ 国際理解教育

- (ア) 体験学習による意欲喚起を目標に、入学から卒業までに何らかの国際交流の機会をすべての生徒が享受できるよう、機会の充実と情報の発信を推進する。
- (イ) 国際社会で活躍するリーダーとしての人権感覚と社会性を育成することを目標に、都教委事業を活用するとともに、TGGの活用、マレーシア修学旅行の実施、オーストラリア国際交流事業の改善を図る。
- (ウ) 国際社会で活躍するための基礎的な資質の育成を目標に、JETやALTを活用した日常的な異文化理解教育と言語教育を充実させるとともに、留学生の受け入れによる体験学習を充実させる。

⑤ その他

- (ア) 生徒及び生徒保護者の帰属意識を高め都民の期待に応えることを目標に、ICT環境を活用した保護者への情報発信、授業公開等の充実、HPの更新など、教育の成果が見える発信の工夫を行う。

(2) 学校経営の目標と方策

- ① 学校のウェルビーイングの実現を目標に、生徒が生き生きと集う学校を実現する教職員が、働きやすく働きがいを感じられる職場づくりに取り組む。コンプライアンスを徹底し協働力を向上するとともに、窓口等対応や会議時間の精査等により、業務に集中し、自己研鑽に励む時間を確保する。また、年次有給休暇等の取得、介護育児参加の支援等、教職員の心身の健康を保ち、ライフ・ワーク・バランスの実現を目指す。
- ② 教育力の向上を目標に、電子化の推進による業務の効率化、OJTによる若手教員の育成、授業の相互参観による全員の学び合い、職員室と経営企画室の協働体制の構築に取り組む。また、実践の成果と課題を記録にまとめ、次年度の改善につなげる。さらに、経営企画室の経営参画機能を高め、計画的・効率的な予算の編成等を通して、教育活動の改善につなげる。あわせて、行政職員の超過勤務縮減に引き続き取り組む。

(3) 今年度の具体的数値目標

(1) 教育活動		
①学習指導		
(ア)	生徒による授業評価、学習への意欲喚起に関する肯定的評価(11月)	95%
(イ)	学校評価、一人1台端末を活用した学習指導の充実に関する肯定的評価	90%
(ウ)	国公立大学や難関私立大等入試問題分析を踏まえた学習課題等の共有	延べ50課題
(エ)	家庭学習の定着(週10時間以上)	1学年70% 2学年75% 3学年80%
(オ)	長期休業期間中講習への参加生徒数	延べ898名
②生活指導		
(ア)	学校評価、特別活動に関する生徒による肯定的評価	90%
(イ)	学校評価、規範意識に関する地域による肯定的評価	90%
(ウ)	学校評価、校内美化に関する肯定的評価	80%
(エ)	部活動年間継続率	90%
(オ)	学校事故発生件数	0件
③進路指導		
(ア)	第一志望進路先決定率	100%
(イ)	共通テスト受験者	91%
(ウ)	英語検定取得者	1級1名 準1級15名 2級150名
(エ)	特別講習への生徒参加率	100%
(オ)	国公立大学現役合格者	15名
(カ)	難関私立大学(早大・慶大・上智大・東理大)現役合格者	30名
(キ)	GMARCH(学習院大・明大・青学大・立大・中大・法大)現役合格者	150名
④国際理解教育		
(ア)	オーストラリア国際交流事業、次世代リーダー育成道場への応募者	67名
(イ)	国際交流体験学習	年間4回
(ウ)	留学生受け入れ等に関わるバディ生徒	延べ50名
⑤その他		
(ア)	学校評価、教育活動の発信に関する保護者による肯定的評価	90%
(イ)	学校見学会・説明会参加者数(延べ数)	2,000名
	授業公開参加者数(延べ数)	1,300名
(2) 学校経営		
(ア)	体罰等不適切な指導、性的ハラスメントなど服務事故発生件数	0件
(イ)	整理・整頓の日	延べ21回
(ウ)	夏季休暇の完全取得 年次有給休暇の取得 育児休暇支援等を含むライフワークバランス、ウェルビーイング満足度	全員 年10日 100%
(エ)	起案 教育系職員と行政系職員の協働	100%
(オ)	経営企画室職員、超過勤務	月8時間